

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【文部科学省】

施策番号	24004	施策名		次世代がん研究戦略推進プロジェクト			
新規／継続	新規	領域	ライフ・イノベーション	国際的位置付け	世界最先端	AP施策	○
競争的資金		e-Rad	○	社会還元			
施策の目的及び概要	次世代のがん医療を実用化し、国民に提供することを目指して、がんについての基礎研究から得られた我が国発の革新的なシーズを戦略的に育成し、臨床応用を目指した研究を加速する。 また、がんの薬物療法において、個人の遺伝的背景に配慮した副作用・効果の予測や診断を可能とする医療の実現に向けて、ファーマコゲノミクス研究の成果を臨床応用するための取組を行う。						
達成目標及び達成期限	平成27年度までに、革新的な基礎研究の成果を厳選・戦略的に育成し、継ぎ目無く臨床研究へとつなげることのできる仕組みを構築することで、 ○簡便、高精度かつ非侵襲な早期診断法の開発 ○再発・転移を抑える画期的な治療法の開発 ○革新的ながん根治療法の開発 等を実現するため、前臨床レベルでの有効性の確認等を行う。						
研究開発目標及び達成期限	平成27年度までに、 ○革新的がん医療シーズ育成チーム：開発した薬剤の前臨床レベルでの薬効確認 ○がん臨床シーズ育成チーム：開発した診断法等の前臨床レベルでの有効性確認等 を達成する。						
23年度の研究開発目標	平成23年度は事業の立ち上げ段階に当たるため、 ○研究方針の決定やプログラムのマネジメントなどを行う強力な研究推進組織の構築 ○効率的かつ速やかにシーズを育成するための研究チームの選定・構築 ○シーズの育成を支援する研究支援基盤の整備・共有化 ○臨床研究を推進するための研究チームの選定・構築 等を実施し、速やかに研究開発に着手する。						
施策の重要性	日本国民の最大の死亡原因であるがんについては、「第3次対がん10か年総合戦略」(平成15年)、「がん対策基本法」(平成19年)及び同法に基づき定められた「がん対策推進基本計画」を踏まえ、がんの罹患率と死亡率の激減を目指した取組を実施することにより、我が国のがん研究の水準は確実に向上し、世界をリードする基礎研究の業績が蓄積しつつある。 一方で、がん研究に関わる現状をみると、有望な基礎研究の成果を医療へと応用する仕組みが十分に機能していないため、革新的な予防・診断・治療法の開発が停滞しており、がん克服に向けた展望が期待できず、国民が最新のがん医療の利益を享受できなくなるおそれがある。 このため本事業を通じて、我が国発の革新的ながん治療薬等の開発を加速することにより、国民に真に有効ながん医療を提供するとともに、国民医療費を低減させることは極めて重要である。						
実施体制	○研究方針の決定やプログラムのマネジメント等を行う研究推進組織の構築 ○効率的かつ速やかにシーズを育成するため、基礎段階に近いシーズを育成する「革新的がん医療シーズ育成チーム」と、臨床段階で得られる臨床情報や患者由来のサンプルの解析により得られる情報を基盤とした基礎研究の更なる発展を行う「がん臨床シーズ育成チーム」を結成し、チームを統括するチームリーダーを選任 ○これらのシーズ育成チーム内に、厳選された複数の研究領域を設定し、領域統括として世界をリードする研究者を公募により選任 ○シーズの育成を支援する研究支援基盤の整備・共有化						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			

—		3,800	
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)			
H23概算要求額の内訳	○次世代がん研究シーズ戦略的育成プログラム 3,000 【主な内訳】 1領域あたりの平均金額:約300 採択予定領域数:10 研究推進組織に係る経費:100 ○がんの薬物療法の個別適正化プログラム 800		
期間	H23～H27	資金投入規模(億円)	190
これまでの成果 (継続のみ)			
社会情勢・ 技術の変化(継続のみ)			
昨年度優先度判定 (継続のみ)	—	優先度判定時の指摘への対応(継続のみ)	—
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)	○一般市民を対象としたシンポジウム等での研究成果の公演・説明 ○インターネット上での研究成果の継続的な発信 ○児童・生徒を対象とした学校への出張講義等を通じた理解増進活動等を実施する予定。		